



愛隣幼稚園.....

園だより

.....20. 2月

手にした「時間」の使い方

来週は節分、暦は春となるのですが、まだまだ季節は冬です。が、今年はなんだか様子が違います。例年なら太平洋側は連日の晴天のはずが、ここのところ連日の曇天、時々雨。雨が上がり朝もさほど冷え込まないので霜柱も見られず、なんだかやっぱり地球が心配です。

私が子どもだった頃（それはもう50年以上も昔）、冬はもっと寒く、夏は今ほど暑くはありませんでした。（エアコンなかった。）もちろん違うのは気候だけではありません。テレビも電話もまだ一家に1台の時代ではありませんでした。高校生になっても携帯電話はなく、友達との連絡は会った時に。でなければ、家の電話か手紙です。大学生の時レポートは全部、手書きでした。空いた時間の暇つぶしに、テレビも見ましたが本を読んだり、音楽を聴いたり。携帯もゲームもなかったのでそんなことで時間は過ぎていきました。30年くらい前までは、様々なことはまだまだアナログで、一つ一つに手間がかかり、時間もかかっていました。

2020年になって、50年前とは全く違う世界になりました。時間も手間もかからない、無駄の少ない便利な世の中になりました。ですから50年前の子どもたちと今の子どもたちでは、経験していることに随分違いがあるように思います。2020年の幼稚園の子どもたちはこんな様子です。ひもを結ぶということがなくなりました。手先が器用でない子が多いように感じます。（蝶々結びができる子が何人いるのかなあ？）1年中、快適な気温の室内で過ごしてきましたから、暑さ・寒さが苦手です。インドアな子どもたち（何故か男の子に多い）が目立ちます。車での移動が当たり前になり、歩く経験が極端に少ない子も多いように思います。（すぐ「つかれたあ〜」と言います。）携帯電話をはじめとするデジタル機器にはめっぽう強い。（子どもたちがYouTubeを観るのは当たり前？）その一方で人とのコミュニケーションは取りづらく、苦手。・・・ちょっと考えただけでも、いろいろ出てきます。子どもの生活は、子どもだけの生活ではなく、大人の生活と繋がってそれを映しています。子どもが手先を使う経験をさせてあげるのは、大人には少々厄介です。教えるのも出来るようになるのも時間がかかります。すこし暑さや寒さを感じる生活は、大人に少々の我慢が必要です。子どもと歩く生活には面倒と危険が付きまといます。YouTubeに子どもの相手を頼めば、大人も好きなことができます。便利で、快適な生活が悪いわけではないのですが、子どもたちには不便であることや、無駄と思う時間が本当は大事だったりするのです。だから大人にもお付き合いいただけないでしょうか。便利になって手にした時間、その一部をもう少し子どもとの時間に使ったら、子どもたちの経験や生活が豊かになりはしないかな？と思うのです。紐は自分で結べたほうがいいし、暑さ、寒さを感じながら体温調節できる健康な体も大事です。歩くことで気付くことはいっぱいあって、心がワクワクします。交通ルールも自然と身につきます。（小学校に行ってからでは少々心配です。）長い人生を考えても、歩けることは大事です。1人でYouTube観るよりも、本当はお家の人とおしゃべりしたり、絵本を読んでもらったりした方がずっといい時間です。そして実はその不便や無駄、面倒と思う時間は、大人の生活を豊かにするいい時間にもなるんじゃないかと、思っています。

先日、20年以上会っていない友人からステキなギフトが届きました。彼女がお気に入りの絶品クッキー、シアバター（保湿クリーム）、“手作りの”立派な梅干し、3枚の便せんに綴られた言葉。「本当は台風のあとすぐに送ろうと思っていたのに、こんなに遅くなって」と彼女は書いていましたが、綴られた文面には20年以上も会っていない遠くの友人を気遣う彼女の優しい人柄や、今を大事にするてんそう丁寧な生き方が溢れていました。今はめっきり書かなくなってしまった“手紙”が届けてくれたステキなギフトでした。

霜柱の立たない庭を眺め、50年前子どもだった私は「心豊かな時間を生きる、ということをそろそろ考えないといけないんじゃないか」と思ったりするわけです。